



がんゲノム医療 中核拠点病院

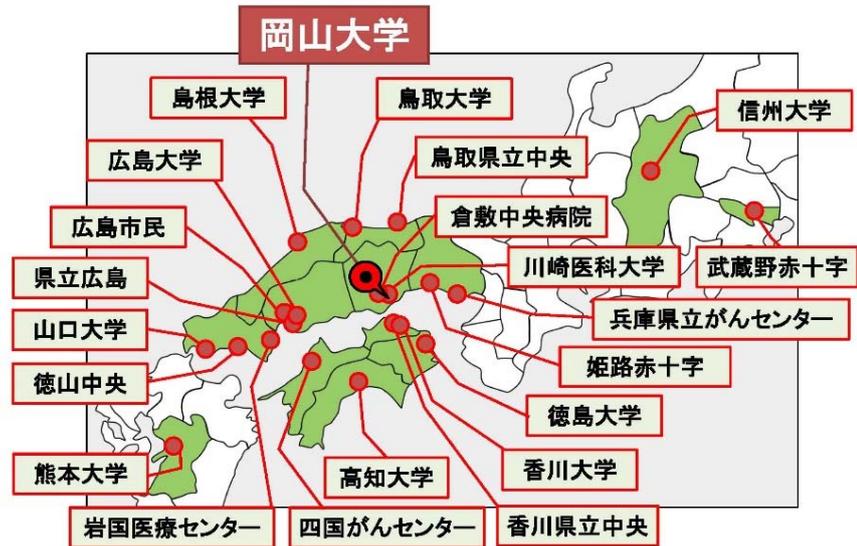
岡山大学病院は平成30年2月に厚生労働省により
「がんゲノム医療中核拠点病院」
に選定されました。



岡山大学病院では、平成27年12月から専門外来の「抗がん剤適応遺伝子検査外来」を立ち上げ、がんゲノム医療を展開してきました。また、ゲノム医療の人材育成においても力を入れています。これらの実績が評価され、中国・四国地域で唯一、「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定されました。

また、中核病院と密接に連携する「がんゲノム連携病院」として、中国・四国地域の9県、東京都、長野県、兵庫県、熊本県にまたがる21の施設が、岡山大学病院の「がんゲノム医療連携病院」として厚生労働省により認定され、共同してがん治療に貢献しています。

岡山大学病院の
「がんゲノム医療連携病院」



国内初のCTガイド下針穿刺ロボットを用いた臨床試験を実施

画像見ながら遠隔操作で腫瘍を採取 医師の被ばくゼロ

岡山大学病院で平成30年6月6日、本学で開発したCTガイド下針穿刺ロボットを用いて患者に対する初めての臨床試験（First-in-human試験）を実施し、成功しました。

患者は60代女性で、左腎に認められた腫瘍に対して病理検査を行う必要があり、事前にロボットを用いた針生検を行う臨床試験について了承を得たうえで検査を実施しました。

同13日には、臨床試験を実施した放射線医学の金澤右教授（岡山大学病院長）と平木隆夫准教授、ロボットの開発に携わった岡山大学大学院自然科学研究科の松野隆幸准教授が記者会見し、ロボットを用いた病理検査のための針生検実施は国内初であると説明しました。ロボットを使った手技では、術中の医師への被ばくがゼロであるというメリットに加え、手技時間の短縮や患者さんへの被ばく低減、医師間の技術格差の低減、さらには遠隔医療に使用できれば地域間の医療格差の低減につながるなど医療の進展にもつながります。

ロボット手術としては「ダ・ヴィンチ」が既に国内で導入されていますが、針穿刺を行うロボットは国内では例がなく、今後の活用が期待されています。

岡山大学が開発した医療ロボット ▶

臨床試験のイメージ ▼



第12回、第13回 国立大学附属病院臨床研究推進会議 中国・四国地区連絡会を開催

第12回、第13回国立大学附属病院臨床研究推進会議中国・四国連絡会がそれぞれ開かれました。第12回連絡会は2月15日、ホテルグランヴィア広島で開催し、中四国地方の国立大学附属病院と川崎医科大学が参加して、トピックグループの活動報告のほか、臨床研究法施行に伴う対応状況等について協議され、活発な意見交換が展開されました。

第13回連絡会は4月13日にテレビ会議として開催。国立がん研究センターの田代志門先生による「臨床研究法とその概要とその運用」と題した講演があり、4月1日に施行された臨床研究法について、法の特徴や運用上の注意点などについて解説していただき、本テレビ会議を通して約100名の参加がありました（※国立がん研究センター、国立がん研究センター東病院担当者がそれぞれオブザーバーとして参加）。



第12回
日時:平成30年2月15日(木) 10:00~
場所:ホテルグランヴィア広島



第13回
日時:平成30年4月13日(金) 14:00~16:00
場所:各機関のテレビ会議室

岡山大学病院に「臨床遺伝子診療科」を開設しました

がん患者の遺伝子を調べ、最適な薬や治療法を選ぶがんゲノム医療が今年度から国内で本格的にスタートし、岡山大学病院では平成30年9月に「臨床遺伝子診療科」を新設しました。診療科には「遺伝カウンセリング外来」と「がんゲノム医療外来」の2つの外来を設け、病気の診断・予防、最適な治療法の選択ができるよう、院内の各診療科と連携しながら安心できるゲノム医療を提供しています。

遺伝カウンセリング外来では、各診療科の遺伝子診療の専門家が遺伝カウンセリングや遺伝学的検査を行います。がんゲノム医療外来では、手術や検査時に採取したがん組織を使って遺伝

2つの
がんの
専門
外来で
予防と
治療



子の変化を調べ、治療法や抗がん剤の選択をし、主治医に提示します。

患者さんやそのご家族が安心してゲノム医療を受けられるよう、検査や治療前後の説明はもちろん、精神的なケアも担っています。

出向者からのメッセージ 医薬品・医療機器を安全に使っていただくために

独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）

新薬審査第四部/再生医療製品等審査部/安全第二部 臨床医学担当

渡部 克枝

平成29年4月、腎・免疫・内分泌代謝内科学教室からPMDAに出向後、リウマチ・膠原病分野の関連品目を中心に審査業務にあたっています。ドラッグラグ問題解消後、安全性情報収集の在り方が問われており、データベース調査及び利活用について整備中です。しかしその根幹は、現場の皆さまからの副作用自発報告です。

PMDAでは皆さまからの医薬品・医療機器の市販後安全情報の収集についても、ホームページで公開し募集しています（<http://www.pmda.go.jp/safety/reports/hcp/pmda-act/0002.html>）。迅速かつ適切に安全性情報を皆さまにお届けするため、是非ご協力いただければ幸いです。



高校生らに最新の科学を解説！

岡山大学病院 市民フォーラム 「ゲノム医療と科学の最先端」を開催

日時：6月3日（日）13：00～15：00 場所：Junko Fukutake Hall

最先端の科学を解説する市民フォーラム「ゲノム医療と科学の最先端」を岡山大学鹿田キャンパスで開催し、高校生や市民約120人が参加しました。

岡山大学の講師らが「ゲノム医療とは」「医工連携」などをテーマに講演。海外での留学経験を交えたゲノム医療に関する研究紹介もあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、フォーラムの前後には事前に申し込みをした高校生を対象に、医療機器の模擬使用体験を実施。シミュレーションセンターで、内視鏡や腹腔鏡の操

作体験や、傷の縫合シミュレーション、人体ロボットを使用した模擬診断などを体験しました。

参加した高校生からは、「ヒトゲノムの研究に興味がわきました」「めったに触れない手術器具を体験できて楽しかった」「将来は医療の道へ進みたい」などの感想が寄せられました。

医療機器の操作や縫合シミュレーション体験



平成30年度 第1回中国・四国TR（トランスレーショナル・リサーチ）連絡会を開催

平成30年度 AMED「橋渡し研究戦略的推進プログラム」岡山大学拠点 第1回中国・四国TR（トランスレーショナル・リサーチ）連絡会が10月2日、岡山大学で開催されました。学内外から約60名が参加。岡山大学薬学部の井上剛准教授による「橋渡し研究戦略的推進プログラム」シーズB採択テーマの講演のあと、岡山大学の取り組みとして、AMED公募関連情報、各製薬企業の最新情報を拠点応募シーズ研究者や学外関係者へ発信していることや、学内シーズの発見・シーズの育成・研究費の獲得支援を目的とした、研究者基本情報、研究情報、研究成果情報を3本柱とするシーズ情報データベースの構築について紹介がありました。

また、AMEDからはパートナーリングシステムAMEDプラット及び知財リエゾン事業の紹介があり、今後は本学でも拠点としての利用の仕方について検討していくことになりました。参加者からの問題提起や意見交換など活発な議論が交わされ、好評のうちに閉会しました。



日時：10月2日（火）11:00～13:00

場所：岡山大学病院 総合診療棟西棟5階 第13カンファレンスルーム

岡山大学臨床研究審査委員会が厚生労働省より認定されました

「岡山大学臨床研究審査委員会」が平成30年3月30日、臨床研究法の対象となる特定臨床研究を審査する委員会として、厚生労働省より認定されました。平成29年4月に、臨床研究の実施の手続きや、認定臨床研究審査委員会による審査意見業務の適切な実施のための措置、臨床研究に関する資金の提供に関する情報公表の制度などを定めた「臨床研究法」が公布されました。それに伴い岡山大学では、「岡山大学臨床研究審査委員会」の設置準備を進めてきましたが、この認定により、臨床研究法における特定臨床研究の審査を行うことが可能となりました。

臨床研究法について：<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/O000163417.html>（厚生労働省HP）

日本医療研究開発機構（AMED）革新的医療技術創出拠点プロジェクト 平成30年度拠点調査（サイトビジット）を受審

日時：10月26日（金）13：00～16：00 場所：岡山大学医学部 管理棟3階 大会議室

日本医療研究開発機構（AMED）による「革新的医療技術創出拠点プロジェクト平成30年度拠点調査（サイトビジット）」を受審しました。猿田亨男プログラムディレクター（慶應義塾大学名誉教授）をはじめ、文部科学省、厚生労働省、AMEDの担当者らが来院し、本学から整備状況の説明の後、パイプライン管理・実績についての確認と、2課題のシーズ発表がありました。

“オール岡山大学”で拠点内外のシーズ支援体制の構築ができており、特にゲノム医療総合推進センター、CMA-Okayamaと連携したネットワーク構築や人材育成など、中四国地区の特色ある拠点としての充実した整備状況について、高く評価いただきました。

「オール岡大」の支援体制、医療連携による人材育成など、高評価

一方で、関連病院からの情報収集体制の今後の見通しや、シーズ育成への対応、拠点外シーズの支援の在り方など、課題について引き続き対応を協議していくよう、指摘がありました。



真剣な表情で拠点調査の対応を行う岡山大学関係者

研究者の横顔 Vol. 7

行政を経験した立場から臨床研究を考える

私は糖尿病内科医として脂肪組織や肥満に関する基礎研究を行い、大学院卒業後より厚生労働省保険局医療課に2年間出向しました。先進医療や患者申出療養といった臨床研究に関連する部署で研鑽を積み、現在は新医療研究開発センターで臨床研究の支援に携わらせていただいています。

本年4月から施行された臨床研究法により、本邦における臨床研究の在り方は劇的に変化し、多数の医療機関が混乱している状況です。そのような中で、医療行政を経験した立場から国の考え方を推測しつつ、当院における対応策について日々検討しています。力不足ではございますが、今後、当院の臨床研究の推進に少しでもお役に立てればと考えています。



岡山大学病院
新医療研究開発センター
片山 晶博 助教

倫理講習会実施中！ ～学外からの参加者大募集～

岡山大学病院倫理委員会事務局（新医療研究開発センター、研究推進課）を中心として毎月1回以上、「倫理講習会」を実施しています。統合指針の基礎的な知識から、研究責任者が知っておくべき事柄について、体系的に学べる内容となっています。今後の開催スケジュールは以下のとおりです。

日時	会場	講習内容
1月11日（金）18:00～	岡山大学鹿田キャンパス 臨床第一講義室	・治験（企業治験・医師主導治験） ・知的財産基礎
2月 4日（月）18:00～	岡山大学鹿田キャンパス 臨床第一講義室	・ヒトゲノム指針総論 （介入研究）
3月 6日（水）18:00～	岡山大学鹿田キャンパス 臨床第一講義室	・ヒトゲノム指針のIC ・研究デザイン各論
		・治験・臨床研究のプロジェクト管理 ・臨床開発 ・論文

詳細はHPをご参照下さい。 <http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/ethics/rc/index.html>